

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200685		
法人名	社会福祉法人 藍山会		
事業所名	グループホーム 然(2F)		
所在地	岡山県倉敷市連島中央4丁目10-30		
自己評価作成日	平成24年7月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2011_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=3390200685-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2011_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=3390200685-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室
訪問調査日	平成24年8月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あるがままに」「共にあるを大切に」を事業所のコンセプトに掲げ、個人の尊厳と人権を尊重しながら、その人らしい人生の実現を目指しています。コンセプトを実践すべく「行動規範」を掲げ、職務を遂行する上での戒めとしています。また、利用者に対しては、日常生活をスケジュール化しないで、その時々の個々の思いや生活習慣を大切にしながらの柔軟な支援を心がけています。趣味を生かした余暇活動、散歩、買い物等を楽しんでいただいています。食事は、昼食、夕食を外部に委託して、その分職員が利用者に十分関わりが持てるようにしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住む人が地域に根差した生活のできる事業所を作りたいという思いで、病院や買い物ができる店、小中学校が近くにある場所を選び、昨年11月に開設した。「然」という事業所名に込めた、その人のあるがままにを大切にするという理念の実践は、例えば、朝食時間に表れている。一斉に食べ始めるのではなく、2時間の幅の中で、利用者は好きな時間に食事を取れる。時間に縛られた日課や全員強制参加のレクリエーションは設けず、利用者はテレビを見たり、洗濯物を畳んだり、おしゃべりをしたりと、思い思いに時間を過ごしている。職員の落ち着いた言動と、利用者とのちょうど良い距離感が、安心と快適を生み出している。一方、地元の小中学校やボランティア団体との結び付きを深め、子ども達や地域の人々との交流で、生活のハリや喜びを感じられるような取り組みにも力を注いでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に繋がっている	事業所のコンセプトを玄関、各階のフロアに掲げて職員がいつでも目に触れることが出来るようにしている。それによって、職員が統一した意識を持ってケアが行えるようにしている。	職員で話し合って決めた事業所コンセプトが理念であり、各階に掲示している。さらに「ちょっと待ってと決して言いません」等の行動規範を守れるよう、職員どうしが協力し合っている。利用者は各々自分のペースで穏やかに生活している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的なつきあいまでは至っていないが、町内の自主防災設備訓練に参加させて頂き、説明を受けた。将来的には、地区の通学・通勤時には挨拶をしたり、見守りを行えるようにしたい。	職員は自分から近所の人々へ挨拶している。その結果、散歩していると反対に近所から声をかけられることも増えてきた。地元小中学校やボランティアの訪問を積極的に受け入れ、また、地域の祭りに利用者と参加し、交流の機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の小中学生が体験学習として定期的に訪問して、歌やゲーム、踊りなどで利用者との交流を図っている。また、中学校での「地域における事業所説明会」では、福祉分野の足がかりとして招かれ、説明を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の運営状況を説明し、様々な意見を拝聴している。また、地区の夏祭りの案内をいただいたり、愛育委員の方にはお誕生日会のおやつ作りに協力をいただくことになっている。	運営推進会議は、家族会長や学校関係者、民生委員など多彩な顔ぶれで、毎回、内容の濃い討議がなされている。会議を通じて、地区の催し物に誘われたり、防災訓練に招かれて、消火栓の場所や扱い方法などを学ぶ機会を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の相談等について、指導、助言をもらっている。	市との日常連絡は少ないが、聞き取り等には真摯に回答している。地域包括支援センターは運営推進会議に毎回参加し、利用者失踪時の地域連携体制などを教えてくれたり、ケアマネジャーの見学会を行ってくれた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や毎月のミーティングにおいて、身体拘束についての研修を行い理解を深めている。基本的には夜間以外は施錠を行っていない。	身体拘束は見受けられず、玄関を含め施錠は一切ない。身体拘束防止のマニュアルを職員に配布し、研修や月ミーティングで注意を促している。「ちょっと待って」ではなく「すぐ伺います」と肯定的な言葉で答えるよう、行動規範にも示され、職員は常に意識して言葉をかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティングにおいて、高齢者の虐待についての研修を行い理解を深めている。		

グループホーム然

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者が数名おり、制度の内容については、利用者とのかかわりの中で理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に説明をさせて頂いている。疑問点や要望などについてもお尋ねし、不安解消に努めている。理解と納得を得られてから、署名・押印を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回の割合で、家族会を開催している。事業所の運営状況や利用者の様子について説明を行い、ご家族からも意見や要望についてお話を伺っているが、今までのところ、苦情はあがっていない。	定期的に家族会を実施し、何らかの対処が必要な意見には、事業所で検討し、次回の会で必ず経過を報告する。例えば、冬場の室内が乾燥しているという声には、即座に加湿器を追加した。また、議事録をいつでも閲覧できるよう、玄関に置いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を毎月開催し、業務改善について職員の意見や提案を聞く場としている。喫煙所の設置やサンルーフの取り付けなど、職員の意見が反映されているものがある。	管理者は、常に職員が働きやすく意見が言いやすい雰囲気を作心がけ、定期会議だけでなく、日常的に気軽に話し合えるようにしている。職員の意見から、更衣室への椅子の設置や、勤務時間によっての建物前の駐車許可などが実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて職員との面談を行い、メンタル面での支援や就業に対する姿勢、やりがい等話を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に毎月参加してもらうようにしている。職員の負担が大きくなるように、勤務時間内の研修参加を心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事業者の専門分科会に管理者が参加している。意見交換や交流を通して、サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム然

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談を受けた後は、本人や家族と面談の時間をとって、状況把握に努めるようにしている。またサービスの内容を説明し、本人や家族の要望等についても詳しく伺い、入居後に安心して生活してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークから契約までに、家族と面談の機会が何回かあるので、その都度、不安なことや要望等については話を伺いながら説明をして、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時に、本人や家族の状況を伺って、必要なサービスについての助言を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所のコンセプトである「共にあるを大切に」を常に念頭に置き、一人一人に寄り添った支援を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や料金支払い時の面会の他、本人の意向を伝えて面会をお願いすることもある。また、体調や日々の暮らしの中に変化があった時は、すぐに報告し、家族と本人とを繋ぐパイプ役を担っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達との外食や外泊を楽しんでもらっている。また、面会時には居室でゆっくりお話を楽しんでもらえるように努めている。	耳が遠くなったり、文字が書きづらくなった利用者の家族へは、電話や手紙でなく、会いに来てもらうよう依頼する。家族の来訪頻度は比較的高く、本人と一緒に外出する家族も多い。友人や後見人の来訪もあり、人目を気にせず話ができるよう、配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や集団体操などリビングで過ごす時には、職員が利用者の中に入り、利用者同士の会話の橋渡しをしたり、声掛けを行うことによって、利用者同士が関わりを持てるようにしている。		

グループホーム然

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者が同一法人内の施設に入所されたこともあり、本人や家族の経過を把握して、必要があれば、相談や支援に関われる状況にある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面談時に、可能であれば本人より暮らし方の希望や思いについて話を伺っている。また、日常生活を通して、本人の意向を察するように努めている。意思疎通の難しい場合は、家族から本人の歴史や人柄を十分に伺って、思いに添えるよ	職員は利用者の世間話や表情から意向を汲み取ったり、家族から聞き取っている。例えば、出身地の郷土料理の作り方を教えてと問いかけて、鍋料理をみんなで作るなど、その人の持つ背景から喜びにつながるものを検討し、実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族に本人の「ヒストリー」をわかる範囲で記入をお願いしている。また、在宅で生活していた時のアセスメント等で情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月カンファレンスを実施し、職員間で情報を共有している。また、介護記録や業務日誌により、情報を申し送っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当者を決め、担当者を中心にカンファレンス・モニタリングを行っている。家族の意見を聞いたり、生活の中から課題を見つけそれに適した支援方法を介護計画に落とし込むように努めている。	在宅時の生活環境に近づけることで、生活の質や身体機能が維持できるよう、利用者ごとに担当職員を決め、その職員が中心となり介護計画を練っている。家族から良い知恵を得られることもある。伝い歩きがやっとなのに、支えなしで歩けるようになった人もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子や支援内容を介護記録に記入している。また、毎日、午前午後と申し送りをすることによって、職員間の情報の共有を密にして、モニタリングや支援方法を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の送迎や立会いなど、状況に応じて行っている。また、友人宅や自宅に外出する時も、送迎を行うことがある。生活必需品の調達も家族の依頼によって行っている。		

グループホーム然

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の「老人憩いの家」で行われている、将棋や手芸クラブ等に参加して楽しみを感じてもらえるように計画中である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院による往診をお願いしている。従前のかかりつけ医での受診を希望されている方については、家族と連絡を密に図りながら、状態や服薬等の把握に努めている。	往診が安心して便利だと、かかりつけ医を協力医に変える人が多い。利用者の日々の様子を正確に伝えられるのは事業所であるとの理由で、協力医が否かに関わらず、受診時には、できる限り職員が付き添ったり、家族に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理や服薬管理、受診等については、看護師に相談しながら行っている。看護師が不在の時は、申し送りによる指示内容を介護職が適切に行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供を行っている。また、病院にも足を運んで本人と面会し、安心して治療を受けてもらえるように配慮している。退院が決まれば、主治医、担当看護師、ソーシャルワーカーと今後の支援方法を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、重度化やターミナルケアの体制が整っておらず、対応出来ないが、将来的には、24時間体制の医療対応が可能になれば、看取り介護も行ってみたいと考えている。	看取りはまだない。重度化に関する指針が重要事項説明書に盛り込まれているが、現場の体制は十分でなく、その現状を家族には口頭で説明している。看取りを不安に感じる職員もいる。心臓マッサージの講習を行うなど、少しずつ体制を整えている。	現状を踏まえた重度化および看取り介護に関する指針を別途作成し、本人や家族に説明し、その同意を文書として取るよう、期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関より講師を迎えて、心臓マッサージの講習を行った。また、急変や事故発生時の連絡網や対応については、内部研修やフローチャートで把握出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回、水島消防署の指導の下避難訓練を予定している。また、地区の自主防災設備訓練に参加し、説明を受ける。	利用者も参加した避難訓練を行っている。地区の防災訓練にも参加し、最も近い消火栓のホースが事業所まで届くのを確認している。防災マニュアルはあるが、職員に対しての周知があまりできていない。	全職員へ消火器の位置や消防署への通報装置の使い方を周知徹底すると共に、防災マニュアルを見直し、誤解のない記述となるよう、期待したい。

グループホーム然

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼称は「～さん」とし、愛称や「～ちゃん」と呼ばない。排泄介助や入浴介助では、羞恥心に配慮し他者の目に触れないように配慮している。また、居室を訪室するときは、ノックや声掛けをしてから入室するように心がけている。	職員は利用者と目線の高さを合わせ、「○○さん」と言葉をかけ、丁寧な口調で話をしている。利用者の頭越しに職員どうしが会話しないよう、立ち位置に気をつけ、特にトイレ誘導はさり気なく行っている。入浴で男性介助を嫌う女性利用者には必ず女性職員がつく。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢の中から選んでもらえるような声掛けを心がけている。意思伝達が出来ない方には、日々の生活パターンから推測して希望を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物、美容院等、希望があれば出来るだけ意に沿えるように支援している。また、日常生活をスケジュール化しないで、本人の希望することをして過ごしていただけるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やカラーリングを希望される時は、理美容への送迎をしたり、訪問理美容をお願いしている。いつも清潔な服装を身につけていただけるように洗濯をこまめに行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に嗜好を尊重した食事を提供している。食事の前には口腔体操を行い、嚥下に留意している。家事が得意な利用者に食器洗いを手伝わってもらっている。	ランチョンマットが敷かれ、彩り良く盛られた食事が出た。職員は検食し、また利用者に味を尋ねたり、観察している。より満足度が上がるよう、配食事業者を変更した。好き嫌いにも対応している。訪問時の献立は麺だったが、利用者の使う塗箸では食べにくそうに見えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事や水分の摂取量を記録している。食事量や水分量が減っている時は、その原因を究明し対応を考えている。体調管理のみならず、認知症状のパロメーターと理解している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。必要に応じて介助をしている。定期的に訪問歯科検診をお願いしており、口腔状態や治療の必要性について診断してもらっている。また、歯磨き指導もしていただいている。		

グループホーム然

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間や回数を記録しており、それをもとに排泄の間隔を把握するように努めている。適切なトイレ誘導により、トイレでの排泄が出来るようになってきている。また、仕草や様子から排泄のサインを読み取れるように心がけている。	排泄記録や利用者の素振りから、職員はタイミングを見計らい、さり気ない声かけでトイレに誘導している。一人ひとりに合った支援を実施し、おむつは夜間に1人だけの使用に留まっている。トイレは清潔だが、車椅子用の便座のため、背の低い人にはやや高い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便周期に合わせて、便秘している人には、服薬コントロールを行っている。また、水分摂取を促したり、腹部マッサージを施行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外、毎日入浴を行っている。一日3人ぐらいを目安に、のんびりと入浴出来るように配慮している。また、暑い日にはシャワー浴も随時希望に応じて対応している。	一人ひとりがゆっくりと入浴できるよう、1日の人数を抑えている。夜入りたい人や、異性介助を嫌がる女性利用者の要望に沿えるよう、可能な限り対応している。排水溝も含めて、毎日掃除され、浴室、脱衣所共に清潔である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高めることで、夜間の安眠が確保出来るように心がけている。休息や就寝の時間については、本人の意思を尊重しており、決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能書を個人ファイルで管理している。職員がいつでも確認出来るようにしている。日々の服薬の有無については、業務日誌に記録している。服薬の変更や追加がある時は、業務日誌と申し送りノートに記入し、職員間で確認し把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割を持っている利用者は、限られている。楽しみごとを見つけた手助けを検討していく必要がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出はないが、イベントとして四国にうどんを食べに出掛けた。地区の夏祭りへの参加も行う予定がある。時候がよくなれば、散歩の回数を増やしていきたい。	気候の良い時は、近くの公園などへ毎日希望者のみで散歩する。また、敷地隣りに作った菜園の様子を見に行ったり、1階のウッドデッキに出て、外の空気を吸えるように配慮している。散歩などは無理強いしないため、外出する人とならない人が明確に分かれている。	



グループホーム然

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は、殆んどいない。事業所の立て替えて、パンや菓子類などの買い物をする時は、職員が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持され、自由に電話を使用している利用者はいるが、殆んどの利用者が電話や手紙のやり取りを希望されることはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節の花を飾ることが多い。また、居間には温度計・湿度計があり、快適な空間を維持するための目安にしている。空気清浄器を2台、冷暖房エアコンを2台設置している。居間の南側には大きな窓があり、採光には十分である。	掃除が行き届き、すっきりとしたリビングである。壁際や廊下にはベンチを置き、腰かけられる場所をたくさん設けている。利用者と一緒に作った壁面装飾を含め、押しピンは一切使わず、安全面にも配慮している。空気清浄器で衛生的に、エアコンや加湿器で快適な温度、湿度になるよう配慮している。	玄関脇が荷物置き場のようになっているので、片づけを期待したい。また、利用者が長時間過ごすリビングに、もう少し潤いを感じさせる演出を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置いて、少人数あるいは独りになれる空間を作っている。TVの前にはソファを置いてくつろぎのスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の種類や配置等は本人や家族にお任せし、使いやすく落ち着ける居室にいただいている。壁には、カレンダーやぬりえの作品など気に入ったものを貼って楽しませている。	掃除はリビングと一緒に毎日行い、可能な利用者には居室の掃除を手伝ってもらい、清潔な空間が保てるようにしている。畳敷きにして布団で寝るのも、ベッドにするのも、その向きをどうするかも各人にゆだねられ、その人にとって過ごしやすい配置となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室ドアの横に住所・氏名を書いた表札を掲げており、自分の家が探せるようになっている。また、トイレの場所がすぐにわかるようにドアの中央に大きく「トイレ」と表示している。廊下の両サイドには手すりが設置してあり、安全に移動出来る。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	ケアに迷った時は理念に立ち戻り、考えるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに行かせて頂いたり、ボランティアの方や小学生も慰問に来て頂き、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域の方への理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で伺った意見は、施設内の会議にも取り上げ、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や不明な点があった際は、担当者へ連絡し、お答えを頂くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠をせず、どこからでも自由に出入りが出来る。ただし、夜間は防犯のため施錠は行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設時に研修は行った。定期的な研修を行っていないため、新しい職員への周知が不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への研修は行っていない。 すでに、成年後見制度を活用されている方もいらっしゃるのでは、関係者との交流は図れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書をご説明のうえで同意を得ている。不明な点があれば、その都度ご説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的に行い、ご意見は伺うようになっている。また、玄関には意見箱も設置し、いつでもご記入いただけるようになっている。 それらのご意見は、運営推進会議でもご報告させて頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議で職員の意見や提案を伺っている。 また、個別に面談を行い、不安や不満を取り除くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、その方に必要な支援を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際に、お困りの事やご要望を伺い、プランに活かせるように努めている。 プランの更新時も同様にご意見を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談は時間を掛け、入居と同時に必要な支援を提供できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に在るを大切に」をコンセプトに日々のケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へも情報を伝え、ケアの方向性を相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院は今まで行かれていた所へ行って頂けるように支援し、関係を継続できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠い方が多く、会話でのコミュニケーションが難しい為、レクリエーションや家事の中で交流して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者がいらっしゃらないが、その際は出来る限りの支援をさせていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から皆さんの意向を伺うように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に伺い、生活環境やリズムが変わらないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合わせた一日の過ごし方を提供できるように努めている。 その方が、どこまで出来るのかを把握し、出来る事はしっかりして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの更新時など、フロア会議で話し合い、多方面の意見を取り入れたプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌を活用し、気付いた点は申し送っていくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型に捉われないよう心掛けているが、サービスの多機能化までは至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに「老人憩いの家」があるが、まだ活用は出ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族へ意向を伺い、馴染みの病院をご希望されれば引き続きご利用いただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関することは、介護職員で判断せず、看護職員へ相談し、指示をもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	よくお世話になる病院のSWとの連携は、密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日本赤十字社の講師に来て頂き、救急法・蘇生法の講習を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、日頃から防災意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より声掛けには気を遣うよう指導している。 個人情報、利用者へ聞こえないような配慮も心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で選択して頂く機会を増やせるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのような場面でも、ご本人の意思を尊重し、出来る限りご希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院がある方は、そちらを利用し、好みの長さにカットして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は行えていないが、盛り付けや片付けは一緒にできるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔状態・嚥下状態を確認しながら、食形態を検討し、その方に合った食事を提供してる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否のみられる方がいらっしゃるため、毎食後全員とまでは至らないが、意識して声掛けをさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄リズムを把握できるようにしている。 また、出来る限りトイレで排泄して頂けるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料を飲んで頂いたり、バナナなどの食物繊維の多い物を召し上がって頂いたりし、出来る限りお薬に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は1時～4時頃と概ね決められているが、ご本人の意向に合わせて対応もしている。曜日や頻度は特に定めていない。 今後は、時間帯を増やせるような工夫を考えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調を考えながら休息を取って頂いています。 不安の強い方は、出来る限り寄り添って安心して頂くように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂いたお薬の説明書を個人ファイルに綴じ、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みを伺い、ご本人に合った生活を送って頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や紅葉狩りなどの外出時は、家族の協力も得られ、一緒に参加して頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はしていませんが、ご自分で管理されている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	やり取りは現在していないが必要があれば支援します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは白熱色と蛍光色の2種類の照明を用意し、時間帯などに応じて使い分けている。また、季節感を味わっていただけるような壁画を作成している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を設置し独りで過ごせる場所も確保している。仲の良い利用者さんはお互いの居室で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物をなるべく持ってきて頂いている。家具の配置は本人、家族と相談して決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送って頂けるよう必要に応じて貼り紙などして、分かりやすい工夫をしている。		